

埋文ふじのみや

MAIBUN

Vol.15



今号のハイライトは、人穴富士講遺跡。そう、富士宮市民なら誰でも知っている（！？）有名人、長谷川角行が修行を行ったとされる場所です。角行は穴の中で4寸5分角の角材の上に爪立ちして、一千日間の苦行を实践したそう。いったいどんな場所だろうと思ったあなた！百聞は一見にしかず。ぜひ、現地を訪れてみてくださいね。標高700メートル超えなので、防寒対策は万全に。

Tsukinowaue 月の輪上遺跡

つきのわうえいせき

富士宮市下星山
調査年 / 1980年

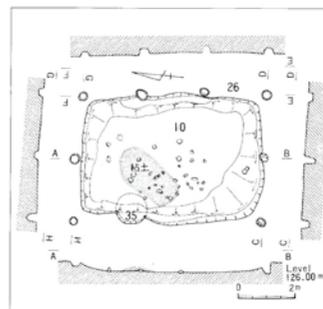


中世の工房跡

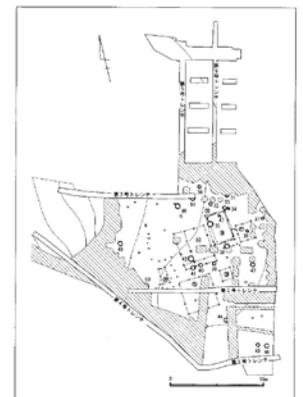
月の輪上遺跡は、星山放水路の東側に位置します。柱を地面にそのまま据える掘立柱建物跡が5棟、南側を向いて見つかりました。また、地面を掘り窪めて、その周りに掘立柱を立てる建物跡も見つかりました。これは、屋根と壁で掘り窪めた地面を覆い、床は掘り窪めた地面をそのまま使った特殊な構造を持つと考えられ、地面からは粘土が固まって確認されており、何かを作った工房であったと考えられます。出土遺物等から、これらの建物跡

は高い身分の人々が利用したものではなく、一般的な身分の人々が生活した場所だと考えられます。

報告書 / 『月の輪遺跡群Ⅱ』1981年



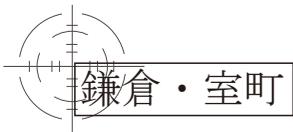
建物跡



調査箇所



建物跡



Marugaito 丸ヶ谷戸遺跡

まるがいといせき

富士宮市大岩

調査年 /
1989年 1990年

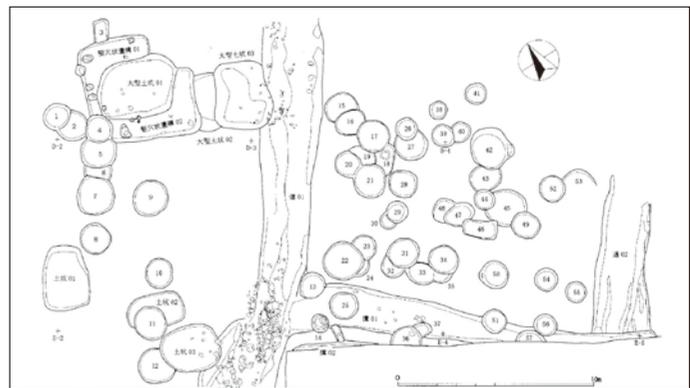


中世の墓地

丸ヶ谷戸遺跡では、1m×0.6m程度の長方形に掘り込んだ穴が複数見つかりました。これらの穴からは、中世の銭貨（お金）が見つかりました。これらは、三途の川を渡るための六道銭ろくどろせんと考えられることから、中世のお墓と考えられます。埋葬された骨等は見つかっていませんが、灯明皿や火打石等の副葬品や、死者の枕石として使われたと考えられる扁平な石もみつっています。お墓の周りでは、道の跡や溝の跡が発見され、

中世には、この地区が墓地として区画されていたと考えられます。

報告書 / 『丸ヶ谷戸遺跡』1991年
『富士宮市の遺跡Ⅱ』2003年



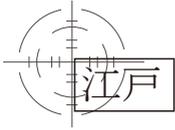
検出された遺構



どこうぼ
土壙墓



Marugaito



Hitoanafujikou

人穴富士講遺跡

ひとあなふじこういせき

富士宮市人穴

調査年 /
2001年 2017年



富士講の聖地

人穴富士講遺跡は、富士山頂よりほぼ真西約 12km、富士山本宮浅間大社から北側約 20km の地点、人穴浅間神社を中心とした場所に存在しています。富士山の旧側火山溶岩（約 11,000 ～ 8,000 年前）の一つである犬涼み溶岩が作り出した扇状地の標高約 690m 付近に位置しています。遺跡の南側で、甲斐に抜ける甲州街道（中道往還）と郡内地方に通じる郡内道が枝分かれしている交通の要衝です。現在、境内地には、鳥居から境内地へ向かう参道があ

り、境内地の突き当りに社殿が、その手前には富士講の教祖とされる長谷川角行が室町時代末に超人的な修行を行なったと伝わる溶岩洞窟や、社殿西側には、主に関東地方の富士講の人々が富士登拝を記念して建立した 200 基を超える碑塔が存在しています。講とは、特定の神社仏閣に参拝するための宗教的グループで、富士講とは富士山を信仰する集団です。関東地方に多くあり、代表者が富士登拝を行っていました。碑塔に施された紀年銘で最古のものは、寛文 4 年（1664）のものですが、18 世後半の天明年間から 19 世紀中頃の嘉永年間に



富士講の人々が建立した碑塔（整備前）

Hitoanafujikou



かけての碑塔が非常に多く、この現象は江戸時代後半の富士講の隆盛を示しています。人穴富士講遺跡は富士講の聖地となっていました。

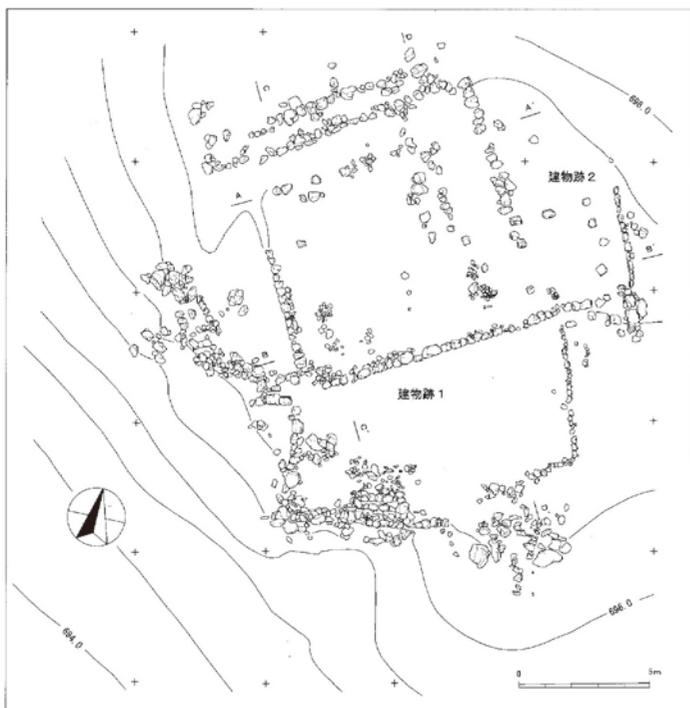
発掘調査では、境内地東側の洞窟上の平場で、石積みによって区画された礎石建物跡が2棟重なって見つかりました。建物跡1は、柱の間が18尺（約5.4m）で3間×3間の建物と考えられており、建物を取り囲むように溶岩角礫を用いて基壇きだんが構築されています。建物跡2は、9尺（約2.7m）四方と建物1に比べると小規模で、内側は前方6尺（約1.8m）と後方3尺（0.9m）とに分かれていたと想定され、建物1と同様に基壇状の高まりがあります。建物跡1と建物跡2は重なり合っており、建物の向きもやや異なっているため、建っていた時期が違うと考えられます。江戸時代の人穴浅間神社



人穴入口（整備前）



人穴の中（整備前）



建物跡



建物跡



江戸時代の人穴

Hitoanafujikou



の様子を描いた絵図には、洞窟の裏側に1棟の建物が描かれており、発掘調査で見つかった建物跡のどちらかの可能性があります。建物跡の西側には道跡と推定される平坦面と石の列が2本、南側には建物跡に向かって伸びる参道跡と考えられる石積みの階段跡も確認されています。

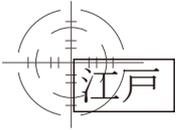
遺物は、建物跡を中心に陶磁器が出

土していますが、17世紀末に遡る可能性のある陶磁器が1点出土している以外は、江戸時代後半の18世紀中頃～19世紀前半と明治時代初頭のものに分かれます。また、建物に使ったと思われる釘や寛永通宝と呼ばれる江戸時代のお金も出土しました。

報告書／『史蹟人穴Ⅱ』2001年



出土した遺物



Idevakataato

井出館跡

いでやかたあと

富士宮市狩宿

調査年 / 2004 年



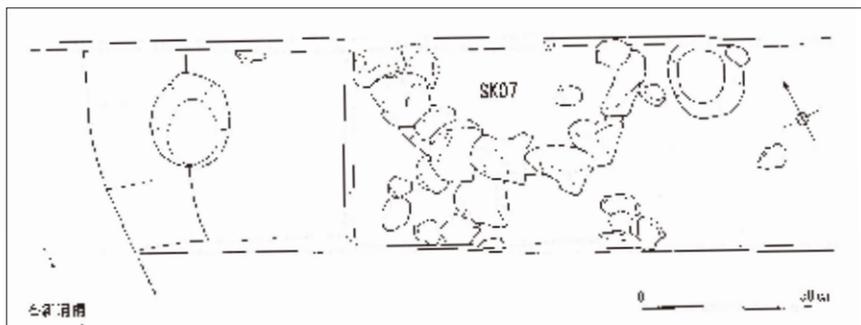
名門井出氏の館跡

井出館は、鎌倉時代初め、源頼朝が行なった富士の巻狩りの際に宿舎になった場所と伝わっています。井出氏はその後、戦国時代まで続くこの付近の有力武士でしたが、江戸時代に入ると兵農分離政策により、百姓身分となり名主を務めました。

これまでに井出館跡では小規模な発掘が

行われました。その結果、江戸時代のものと思われる道や溝、柱の跡等が見つかりました。今のところ江戸時代より前の明確な痕跡は確認されていませんが、現在は、頼朝や御家人が下馬したと伝わる桜（下馬ザクラ）や、江戸時代に建てられた高麗門が残されており、歴史を感じられる場所となっています。

報告書 / 『富士宮市の遺跡Ⅳ』 2008 年



石組遺構



Idevakataato

次号の案内

富士宮市内で見つかった遺跡

近世の遺跡

旧石器時代からこれまで数多くの市内の遺跡を見ていただきましたが、『埋文ふじのみや』で紹介する予定の遺跡は残すところ『二股村石経塚跡』ただひとつ。次号では、本遺跡と詳細と共に、現在までに市内で出土した遺物の中から文化財に指定されるなどした貴重な資料を、詳しい解説と併せて掲載していきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、様々なイベントの予定が立たないため「富士宮市の見どころ案内」をお休みします。

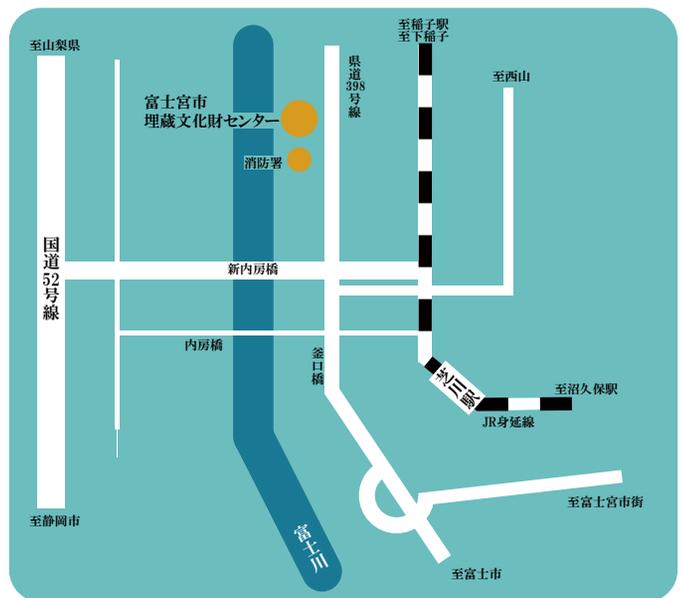
富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

- 所在地 〒419-0315
静岡県富士宮市長貫 747-1
- 電話 0544-65-5151
FAX 0544-65-2933
E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp
- 展示室 平日
開館日 * 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館
- 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
* 埋蔵文化財センターの業務時間は
8:30～17:15
- 見学料 無料
駐車場 あり（無料）

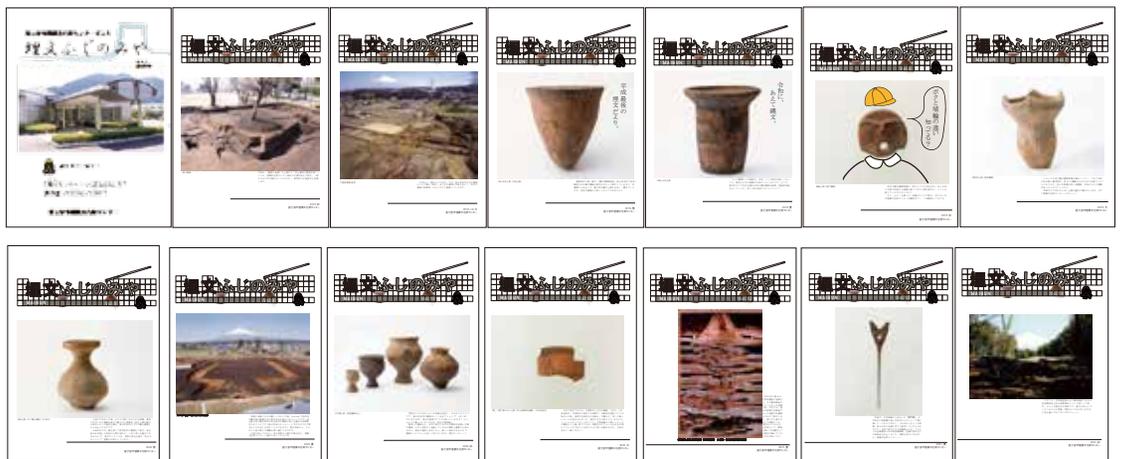


交通案内



バックナンバー の ご紹介

これまでに発行された『埋文ふじのみや』Vol.1～Vol.14は、富士宮市のホームページでご覧になれます。合わせて、最新号も公開しています。



富士宮市埋蔵文化財センターだより
埋文ふじのみや Vol.15

令和3年12月

編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター